

様式第2号（第8条・第9条関係）

令和 4 年 4 月 8 日

白老町議会
議長 松 田 謙 吾 様

白老町議会議員 佐藤 雄大 印

派 遣 結 果 報 告 書

日 時（期 間）	自 令和4年3月23日（水） 至 令和4年3月27日（日） 4泊5日
目 的 地	香川県直島町 大分県国東市、別府市
調 査 事 項	文化芸術観光振興について
視 察 の 成 果 （具体的に）	別紙のとおり報告いたします。

※ 必要の都度、写真その他を添付すること。

○香川県直島町

香川県に位置し、多数のアートが点在している島。江戸時代は瀬戸内海の海上交通の要衝を占め、海運業や製塩業の島として栄えた。大正6年になると三菱鉱業、現在の三菱マテリアル株式会社 直島製錬所が設立され発展を遂げてきた。現在は瀬戸内国際芸術祭の開催地のひとつとして日本全国、世界各地から多くの観光客が訪れる。

行政としては元直島町長の三宅氏が北部を産業エリア、中央部を生活、教育エリア、南部を文化リゾートエリアに分けてまちづくりをしてきた。

○福武財団

株式会社ベネッセホールディングスの株式からの配当金を主たる原資として、アートや文化、学術研究による地域振興を行っている。

Benesse（＝よく生きる）というグループとして共通の理念をもった財団は、公益性の高い事業を行い「よく生きるための地域づくり」を支援している。地中美術館、ベネッセハウスミュージアム等の美術館事業も実施している。

○ベネッセアートサイト直島

直島・豊島（香川県）・犬島（岡山県）を舞台に（株）ベネッセホールディングスと（公財）福武財団が展開しているアート活動の総称。文化芸術で個性豊かな地域社会をつくる。人、文化の交流が海を渡って行われてきた。よき自然、歴史、文化、人に内包されて生活していくことの大切さを重視している。

○瀬戸内国際芸術祭

瀬戸内国際芸術祭とは、瀬戸内海の島々を舞台に開催される現代美術の国際芸術祭である。略称は「瀬戸芸」。対象地区が岡山・香川の両県に跨る、一大イベント。トリエンナーレ（3年に一度）として2010年から開催。2019年は約117万人の来場者数。（内海外客約23%。9割以上が満足、6割が女性客、8割が再来訪志向）180億円の経済効果。男木島では移住者の増加により小中学校が再開。2022年5回目の芸術祭が開催中。

○家プロジェクト

1998年に開始し、現在7軒。芸術祭期間以外でも鑑賞可能。古い民家を修復・保全・復元させながら現代美術の空間として再生するプロジェクト。各プロジェクトに地元住民がスタッフとして常駐し、来場者の案内などを実施。

以下は宮島達男氏の作品「角屋」（左）と杉本博司氏の「護王神社」（右）



○大分県国東半島芸術祭

2014年から開催され、半島の各地に9つの作品を恒久設置。世界的に著名なアントニー・ゴームリーをはじめ、オノ・ヨーコやチームラボといったアーティストも参加し、現在も作品を見ることができる。以下は長崎鼻のオノ・ヨーコ氏作品「見えないベンチ」。



○BEPPU PROJECT について

BEPPU PROJECT は、世界有数の温泉地として知られる大分県別府市を活動拠点とするアート NPO。2005 年 4 月に発足して以来、現代芸術の紹介や普及、フェスティバルの開催や地域性を活かした企画の立案、人材育成、地域情報の発信や商品開発、ハード整備など、さまざまな事業を通じてアートが持つ可能性の普遍化を目指し、アートを活用した魅力ある地域づくりに取り組んでいる。『国東半島芸術祭』の主催。

以下は BEPPU PROJECT が運営しているアーティスト活動支援の住居「清島アパート」(上)

彫刻家レイチェル・ホワイトリード氏の現代アート「クニサキハウス」(下)



○まとめ

文化芸術振興は観光に密接に繋がること、住民が豊かになるということを再度感じた。また、本町における可能性としては既存の充実した地域資源を活かしながら、町が文化芸術の可能性を理解する。そして、町内の文化芸術団体（トビウアートコミュニティー、しらおい創造空間「蔵」、文化団体連絡協議会等）との協力や連携を図っていく必要がある。

また、具体的に進めていくためには、

・文化振興のための条例の制定

・文化芸術に対しての振興基金の増額

・ビエンナーレ、トリエンナーレの開催

・常設展示作品の設置

を検討、実施することを目指し、さらにはウポポイ来場者数の一部の観光客を町内の文化芸術関連施設等に呼び込むことで、経済効果、町内への波及効果を高めていく必要がある。